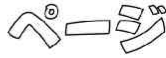


ホーム



文献検索の楽しみ

閲覧課 森田 孝文

私は、現在理工分室に勤務しています。業務のひとつに相互利用サービスがあります。相互利用とは、他大学や企業等からの文献複写依頼のことです。依頼用紙には、書名・巻号・刊行年・ページ・著書・論題が明記されています。しかし、時に該当ページに文献が無いという場合もあります。そこからが私の楽しみの始まりです。文献を探して見つけ出す楽しみなのです。

書名・著者などの検索項目を頼りに、科学技術文献速報の年間索引やCAOnCDなどを使い探していく訳です。刊行年数の違う場合、前後数年を調べることになります。雑誌の巻末に索引が付いている場合は、やり易いのですが、付属していない場合もあります。同じ請求記号で書名が違う文献など、色々苦勞します。しかし、そこで文献を見つけた時の喜びを経験することで、楽しみに変わる訳です。

学生の利用相談の場合、洋書では略語で書かれています。検索出力で違う書名が表示されたりします。参考文献からの引用になればほとんどが略語です。

例えば「chem sens」をNACSISで検索すると「Sensors and actuators,B,Chemical」が1件表示されました。しかし、学生の希望する雑誌ではないのです。ChemはChemicalですが、Sensが何かです。上記から「Chemical Sensors」で検索すると43件ヒットしました。その中の「化学センサー」が刊行年から見つかりました。横文字から和書が見つかるという思わぬ結果が出ました。思い込みは、いけない事を痛感した一幕でした。

何事にも、間口を広げて事に当たる。文献を探す楽しみは、思考する楽しみです。本を

探す楽しみを見つけて下さい。分からない事があれば、もっと利用相談すれば答えが得られると思います。案ずるより、利用相談です。

読み方いろいろ

閲覧課 松本 牧子

1999年8月に、衆議院本会議で、2000年を「こども読書年」とすることが決議されました。これは、国立の国際子ども図書館が2000年に開館することにちなんだもので、読書の持つ計り知れない価値を認め、子どもたちの読書活動を支援することを目的としています。（読書の問題が国会決議となったのは、日本憲政史上初めてのことだそうです。）

我が家もそれにちなんで、二歳の娘に、ブック・スタート・プロジェクト！として、できるだけ多くの絵本を読んでやろうと思ひ実行しています。しかし、娘が読んで欲しがる絵本は、必ずいつも同じものです。たくさんの絵本の中からその一冊を選んできます。おそらく、彼女は挿し絵やことばのリズムに魅了され、その一冊に夢中になっているのでしょう。なかなか思うようにはいかないものです。

ところで本の読み方にも色々ありますが、私の知人でユニークな選書・読み方をしている人がいます。その人は、いつも暇さえあれば本を読んでいます。それも複数の本を同時進行で読むというのです。一冊のメインの本を読んで疲れると、心が躍るような、興味が引き立てられるような別の本を読んで、リフレッシュするのだそうです。そういう読み方もあるのかと感心させられます。

図書館には、下記のような図書も所蔵しています。タイトルは、『妖怪事典』（参388.033-Y74）。内容は、地車吉兵衛（ダン